

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101044		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	大津ケアセンターそよ風(グループホーム・もみじ)		
所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目18-20		
自己評価作成日	平成25年6月8日	評価結果市町村受理日	平成25年7月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成125年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた静かな環境の中、入居者はゆっくりと自分のペースで生活を送っている。職員は常にかかると笑顔で接するよう努め、入居者に寄り添い自立支援を基本的にサービス・介助を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年10周年を迎える大津ケアセンターそよ風は、瀬田川畔の閑静な新興住宅街の中で広大な敷地を有し、1階はデイサービスと居宅介護支援の事業所、その2階部分がグループホームである。居室やベランダの窓からは裏山が眺望できて季節の移ろいが実感できる。職員は1階の各施設と連携し、利用者の生活歴を大切にするために趣味や嗜好を活かして過ごせるように気を配り、会話も出身地の方言を用いる等その人に合わせている。利用者は美味しい食事を楽しみにしており、ゆったりとした施設の中でのんびりと過ごし明るい歌声が聞こえてくる。自治会に加入し、近所付き合いも上手くできている。運営推進会議には利用者家族の出席率が高く、意見交換も盛んである。こ地元自治会長の出席を得ており地元に着する体制は整っている。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名: もみじ

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を玄関・事務所・リビングに掲示している。毎朝唱和し、職員全員が共有している。グループホーム独自の理念も作り、実践に繋げている。</p>	<p>利用者様の思いを参考に作成した理念は「仲間や地域とのふれあいを大切に」と謳い、誰もが分かるように玄関や居間、事務所に掲示している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事(運動会・清掃・夏祭り・文化祭等)には利用者様と一緒に参加している。</p>	<p>事業所として自治会に加入し、地域の夏祭りや運動会、文化祭等には利用者が参加している。文化祭には6点の書画を展示した。毎年幼稚園児や龍谷大生の歌や踊りの訪問を受けている。体験実習生を積極的に受け入れている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>居宅介護支援事業も設けており、認知症や介護に関する相談窓口を設けている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者家族、自治会長、包括支援センター、外部の方の出席を得て、現状報告・日々の取り組み・行事予定を報告している。</p>	<p>会議は2カ月毎に開催し、議事録を取り実践に役立っている。自治会長の出席を得て地元との連絡を密にしている。出席できない家族には事前に意見や要望を受け会議に反映している。家族からの提言で日帰り旅行を実施した。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課に連絡、相談し助言を受けている。地域包括支援センターには、推進会議に出席して頂き、実績を伝え、助言を受けサービスに繋げている。</p>	<p>市の介護保険課に市外からの利用者の介護保険証が来ないのでどうしたら良いか相談し、解決の為の助言を受けた。その他包括支援センターにも、日常の進め方について相談している。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内外部の研修及び委員会を設け、全職員が理解している。玄関においては、夜間は防犯上施錠しているが、昼間は通常開錠しており、押し釦式のロックで対応している。</p>	<p>1階のデイサービスや居宅介護のメンバーと毎月定例の身体拘束委員会を開催、拘束をしない事の大切さを繰り返し確認し、大きな声を出す等の言葉による拘束の問題についても議論している。議事録を職員に回覧し周知している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内外部の研修及び委員会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用しておられる方、検討しておられる方もあり、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ、解りやすく丁寧に説明し、納得していただけるように心がけている。又、不安や疑問については気軽に話せるような雰囲気づくりをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にも出席して頂いている。推進会議で意見・要望を話せる機会を設けている。反映するよう、職員間で話し合い努めている。	入り口にご意見箱を設置している。運営推進会議でも家族の要望を受けている。金銭出納帳の記載方法について家族から要望があり、これを改善した事例がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	平素より職員の意見を聞き、会議で意見交換や情報収集をしている。所内の会議で情報を共有化している。	管理者が日頃から職員の意見を確認し、毎月の定例会議でその対応について話し合っている。最近では2人介助の必要性の事や研修生の受け入れ対応等について話し合った。議事録を回覧し、全員に周知している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況を把握し、職員の個々の自己啓発を推奨しており、評価している。自ら希望する研修には勤務を考慮し、参加出来るよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・途中採用者の従業員研修シートを作成し、評価の基、指導を行っている。社外の研修にも全職員対象に可能な限り、参加するよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報や各種研修の案内を受けており、参加している。会社組織として近畿支社における内部交流研修があり、他の事業所について学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に来訪・見学して頂き、ゆっくり自分のことを話せる機会を雰囲気を作り、傾聴している。又、こちらからも出向き、お話を聞くこともある。常に本人様の意思の尊重に努め、本人の立場に立ち、考えるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、しっかりと話を聞き対応している。専門的立場からの助言も行い、不安の軽減を図っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の思い、希望を口頭及び書面にて受け、専門的立場からの助言も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で入居者の不安・寂しさや喜びを共有できるよう常に心の動きを掴めるように努めている。遊びや料理、趣味を通じて生活の知恵を教えてもらうことも多く、支えあう関係が構築できている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の双方から話を聞き、理解する事でよりよい関係が築いていけるよう支援している。家族の思いや悩みを職員全員が理解しておくよう話し合っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部への手紙や電話は自由であり、外出・外泊も出来る。原則、面会時間の制限はなく受入れている。面会に来ていただいた方、家族に暑中見舞い、年賀状を出している。自分で書けない方は職員が代筆している。	基本的には家族の同意の下面会は自由である。近所の住民や元職場の同僚が訪ねて来る。ドライブによる外出時には遠回りしてでも馴染みの場所に足を伸ばす等の支援をしている。長等の商店街を訪ねた事例がある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握しており、皆さんで一緒に過ごす時間を作っている。毎日、体操やレクリエーションを行い、時間を共有出来るよう、支援している。個人個人にも配慮し、孤立することのないよう、声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受けた時には、専門的な立場から助言している。電話により、その後の様子を聞くこともある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とゆっくり向き合う中で意向を把握し、本人の望む暮らしに近づけるようプランを立てている。意思疎通が困難な方については、日々の様子を見てその人本位のプランを立てている。	フェイスシートや家族からの情報を得て、その日の利用者の意向を確認しながら、プランを立てている。習字や書き物、縫い物や計算、活字の好きな利用者など個々に楽しんでいる。歌うのが好きで僅かな時間でも大きな声で合唱している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前より、家族や本人から話を聞き、把握に努めている。利用されていた事業所にも連絡を取り、情報提供を受けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の人権を尊重しながら、日々の記録・観察を行い現状を把握し、その方らしく気持ちよく一日を過ごせるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度会議にてケアプランを見直しをしている。前回の評価説明を家族にも改めて行い、意向を聞いている。必要に応じ、家族と相談・確認を取りながら作成している。	ケアプランは3ヶ月毎に見直している。この際必要に応じ家族や協力医とも相談確認している。カンファレンスは出席者名、検討した内容、結論、課題と整理されており、木目細かい内容となっている。	全職員に周知する必要があるため、カンファレンスの記録に主治医の意見と家族のニーズを記入する事を望みたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・排泄状況の記録・日中夜間の状態や様子を個々に記録し、プランのモニタリングを日々行っている。申し送りノートや1ヶ月毎にミーティングで話し合い、職員全員で共有・周知し統一した介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行政への手続きや備品の購入等、入居者や家族の要望には出来る限り応じるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と共に自治会の活動に楽しみながら参加し、地域に貢献していることを自覚してもらい、自信に繋がるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望される病院を受診していただくようにしている。月2回の提携医による定期往診を受け、日頃の様子や変化を伝え指示、指導を仰いでいる。	本人や家族から要請があれば希望の病院への通院を支援している。この1年間で瀬田川病院や草津総合病院、大津市民病院への支援をした。全体の9割の利用者が主治医を協力医に変更している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約をしており週1回の訪問時に個々の健康状態について報告、相談し指示を仰ぎ、健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心に病院関係者との情報交換を行っている。ケアカンファ等の話合いの場に参加し、情報収集に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その方にとっての安心・安楽は何であるかを常に職員間で話し合い(出来ること・出来ない事)の見極めを行っている。今後については、家族と話し合いに要望に副えるようにしている。	契約提携時に「重度化した場合の対応・看取りに関する指針」を説明し、看取り体制や医師看護体制等について確認をしている。その事を文書化し家族の同意を得ている。看取りにおける介護加算額を重要事項説明書に明記している。利用者の体調変化に合わせ合わせ意向や対応を確認している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、研修に参加しているが、定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。自治会の訓練にも参加している。	消防署指導の下、避難訓練を年に2回実施している。各居室入り口に入居者のADL状態が一目で分かる様に利用者の全体像を絵で表している。地元自治会の消火訓練には職員が参加した。ヒヤリハットの提出をこまめに行っている。	非常時の連絡網が誰でも一目で分かるように事務所に大きく掲示する事を望みたい。緊急時に地元の協力を得る努力を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活習慣、性格を把握した上で、他入居者との関係を損なうことのないよう、一人一人にあった言葉掛けをし、対応している。自尊心を傷つけないよう心がけている。	人としての尊厳を傷つけないようにドアの開閉や言葉掛けは常に職員間で注意し合っている。特に風呂やトイレは羞恥心対策として小声で誘導している。難聴者にはできるだけ耳元で話すように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族と同様、職員が寄り添いながら、話す機会を作り、自己決定が出来るよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の出来ること・できない事を踏まえたうえで、無理強いすることなく、やりたいことをやりながら過ごして頂けるよう支援している。又、体調を考慮しながら買い物や外出の希望にも対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て自信の身なりを確認できるように配慮している。頭髮に関しては、訪問理容サービスを提供している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意・配膳・片付け等をお願いし、職員と共に行っている。誕生日会や季節の行事には、いつもと違う食事を用意し、楽しんで頂いている。	利用者は野菜の皮むき、配膳や後片付け等できるを手伝っている。献立には季節の旬のものを取り入れたり、誕生会等の節目の時はお寿司など特別食を取り入れている。食事は職員も談笑しながら一緒に食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、その方にあった食事を提供し支援している。都度の食事や水分量がすぐ分かるよう記録に残し、状態に応じた対応をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず声かけし、個々の力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに記録を残し、パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を心がけ自立支援を行っている。必要に応じ、随時トイレ誘導を行い失敗に繋がないように支援している。	個人の排泄パターンを知り、小まめにトイレに誘導する事で失敗は少なく、昼間はリハビリパンツから失禁パンツになった利用者もいる。失敗した時には自尊心を傷付けない様に、言葉掛けに注意しながらそっとトイレに誘導し対処している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・水分量を記録し、個々の体調や排便状況を把握して、予防や対策について医師や看護師に相談し指示を受け、実践している。体操やマッサージ、食事にも気を配り、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね、午後に入浴時間を設けているが、楽しくゆっくり入浴出来るよう、心がけている。入居者の要望や体調に合わせ、楽しんで入浴出来るように対応している。介助により清潔保持に努めている。	入浴は原則2日置きの午後としているが、利用者の要望で午前中に入浴する事もある。湯船は各浴室に2個設置されており、利用者の待ち時間を短縮している。季節には菖蒲湯やゆず湯、バラの花を浮かべる等して楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の過ごし方は自由である。孤立することのないよう、声かけする事はあるが、無理強いすることなく部屋でゆっくり出来る。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に目を通しており、薬について勉強している。服薬の確認を記録し、ミスの無いよう努めている。変化については、都度状況を記録し、医師に連絡を入れ調整がなされている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・掃除・食事の準備や片付け等、個々の得意とすること興味のあることを把握し、楽しみながら出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば出来るだけ意に沿えるよう、支援している。2~3人づつ近くを散歩したり、買い物に出かけている。時間があれば、ドライブし、外食することもある。車いすや散歩等長時間の歩行が難しい方が増えてきているので、全員での外出は少なくなっている。	天気の良い日は施設内や瀬田河畔の散歩、近くのコンビニやスーパーに買い物に出掛けている。季節毎に近隣の公園や食事に出掛けている。最近では瀬田アルプラザ、大津館、ファミレス等花見を兼ねてのドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により買い物に出かけ、自分で選び、力に応じて支払いが出来るよう声かけ支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは自由であり、事務所の電話をいつでも使用できる。葉書や便箋も用意している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のスペースは全て余裕があり、明るく清潔である。随所に入居者の作品や写真を飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。音楽やTVの音量には配慮している。	敷地内の畑やベランダには花や野菜を植え散歩時の癒しとしている。建物はゆとりある設計で明るくて広々としており居間には紫陽花等を活け、壁には季節に合わせて雨の中の蛙等の大きな掲示物を掛けている。利用者の習字や絵等の作品や写真も飾っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング以外で過ごすことの出来る場所を数箇所確保している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が馴染みの品物を持って来られたり、自分好みに合わせ、それぞれが快適に心地よく過ごせる工夫をしている。	居室入り口には好みの暖簾を飾り、仏壇やお花、家族との思い出の写真を飾っている。趣味の本を並べたり、自作の書画を貼り付けたり、好きな緑の植木鉢を持ち込んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	暖簾をかける・トイレや風呂場の表示をするなどの工夫をしている。内部はバリアフリー・手摺り・車いす対応の完備により、出来ることを行いながら、身体機能を活かした安全に生活できるよう、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101044		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	大津ケアセンターそよ風(グループホーム・さくら)		
所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目18-20		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中、入居者はゆっくりと自分のペースで生活を送っている。職員は常に明るく笑顔で接するよう心がけ、入居者に寄り添い自立支援を基本的にサービス・介助を行っている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成25年6月20日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット名: さくら

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・事務所・リビングに掲示している。全体の朝礼時にも毎日唱和し、職員全員が共有できている。グループホーム独自の理念も作り実践に繋げている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりに重点をおき、運動会・清掃活動・夏祭り・文化祭等の自治会行事に入居者と共に出来る限り参加し、交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、居宅介護支援事業も手がけており、認知症や介護に関する地域の窓口を設けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族・自治会会長・包括支援センターの出席を得て、入居者の現状・行事・活動報告をし、意見を求めると共に協力をお願いしている。必要な対応策はミーティングで話し合いケアサービス向上に生かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市介護保険課に連絡・相談をし、助言を受けている。地域包括支援センターには、運営推進会議に出席して頂き、実績を伝え助言を受け、サービスに活かせるよう、努力している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、内外部の研修に参加し、全職員が理解をしている。玄関においては夜間は防犯上施錠しているが、通常は開錠しており、押し釘式のロックで対応している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部の研修に参加している。事業所内に事故防止委員会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおられ、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	こちらから不安や疑問について尋ね、気軽に話せる雰囲気を作るようにしている。疑問には解りやすく丁寧に説明し、納得して頂けるよう心がけている。不安は少しでも改善されるよう、助言している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも出席して頂いている。家族様の来訪時には職員が話を聞くように努めている。運営推進会議で意見、要望を話せる機会を設けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き、会議で意見交換や情報収集をしている。事業所内の全体会議で意見や情報共有の場を設けており、継続的に取り組んでいる。議事録を回覧し、全員が周知するように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	努力や実績・勤務状況を把握し、職員個々の自己啓発を推進している。自ら希望する研修には勤務を考慮し、参加出来ている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・中途採用者の条業印研修シートを作成し、行課の基、指導を行っている。内外の研修にも全員対象に可能な限り参加するよう、努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報や各種研修の案内を受けており、参加している。会社組織として近畿支社における内部交流研修があり、他の事業所について学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に来訪・見学して頂き、ゆっくり自分のことを話せる雰囲気を作り、傾聴している。常にご本人の立場に立ち考えるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時からしっかりと話を聞き対応している。専門的立場からの助言も行い、不安の軽減を図っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回、面接時に詳細に聞き取りを行い、把握に努めている。前施設、前ケアマネからの情報提供をお願いし、支援を検討している。相談を受ける窓口もあり、専門的な立場からの助言も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、寂しさや喜びを共有できるように、常に寄り添い、心の動きを掴めるように努めている。料理・趣味・遊びを通じて生活の知恵を教えてもらう等も多く、支えあう関係が構築できている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族から話を聞き、互いの関係を理解する事で今までと同様の関係が築いていけるよう、支援している。家族の思いや悩みを職員全員が理解しておくよう、話し合いを周知している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部への手紙や電話は自由であり、外出も出来る。原則、面会時間の制限はなく受入れている。馴染みの場所等は機会があればドライブ等で支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握している。体操やレクリエーションを行い、同じ時間が共有できるように、支援している。個々の出来ることへも配慮し、本人にあったプランをたて孤立することのないよう、声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受けた時には、専門的な立場から助言をしている。電話にてその後の様子を聞くこともある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、状態を把握し上で、本人の希望・意向を聞き、プランを作成している。意思疎通が困難な方については、日々の様子、訴えから思いを吸い取りプランを作成している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される際、面談等で生活歴や生活環境を伺い、把握に努めている。利用されていた事業所にも連絡し、情報提供を受けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、観察を行い、現状を把握し、その方らしい一日が過ごせるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度会議にてケアプランを見直しをしている。家族にも前回の評価説明をし、改めて意向を聞いている。見直しが必要になれば家族に相談、確認をとりながら作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・排泄状況記録・日昼夜の状態や様子を個々に記録し、プランに沿って介護・介助を行っている。1ヶ月毎にミーティングを開き、職員間で共有・周知し統一した介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行政への手続きや備品の購入等、入居者や家族の要望には出来る限り応じるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員共に自治会の活動に楽しみながら参加し、地域に貢献している事を自覚してもらい、自信に繋がるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望される病院を受診して頂くように支援している。月2回の提携医による定期往診を受け、日頃の様子や変化を伝え、指示・指導を仰いでいる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約をしており、週1回訪問時に個々の健康状態を報告、相談し、指示を仰ぎ健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心に病院関係者との情報交換を行っている。ケアカンファ等の話合いの場に参加し情報収集に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その方にとって安心・安楽は何であるかを職員間で話し合い(自分達ができること・出来ないこと)の見極めを行っている。今後については、家族との話し合いの場を設けている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、研修に参加しているが、定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。自治会の訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活習慣を大切にし、性格を把握した上で、他利用者との関係を損なうことのないよう、言葉掛けをし対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族と同様、職員が寄り添いながら話す機会を作り、自己決定ができるよう支援し、安心して暮らせるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の出来ること・出来ないことを踏まえ、生活リズムを把握し、無理強いすることなくやりたいことをしながら過ごして頂けるよう支援している。体調を考慮しながら、散歩の要望にも対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の身なりを確認できるよう、鏡を設置している。季節にあった衣類を一緒に選んだりもしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	容器や盛り付けに工夫をし、食欲が湧くようにしている。嚥下力や噛む力に合わせて軟らかくしたり、刻んだりしている。又、誕生日会や季節の行事に、いつもと違う食事を用意し、楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、その方にあった食事を提供し、支援している。都度、水分量や食事量が分かるように記録に残し、状態に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた力で口腔ケアを促し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにより、パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を心がけ、必要に応じて随時トイレ誘導、声かけを行い、失敗に繋がらないよう、努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分量を記録し、個々の体調や排便状態を把握し、予防や対策について、医師や看護師に相談し、指示を受け実践している。体操やマッサージ、食事にも気をつけ、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助の負担が大きくなり、入浴日や時間を希望に合わせることが難しくなってきた。その為、入浴日や時間は概ね設定されている。気持ちよく入浴できるよう配慮し、清潔保持に努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の使い方は自由である。生活リズムを保ちながら午睡される方もいる。孤立しないよう、声かけすることはあるが、無理強いすることはない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に目を通してあり、薬について勉強している。服薬ミスのないよう、記録をとっている。変化については、都度状況を記録し、医師、看護師に連絡をいれ調整している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳み、掃除等個々の得意とすること、興味のあることを把握し、楽しみながら出来るよう、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体力や体調に合わせて支援しているが、車いすや散歩等長時間の歩行が難しい方が増えている。外出の頻度は減ってきているが、個別レクやドライブで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望に応じ、買い物に出かけ、選び、力によって支払いが出来るよう、声かけ支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話・手紙のやり取りは自由であり、事務所の電話をいつでも使用できる。葉書・便箋等は用意している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同のスペースに余裕があり、明るく清潔である、随所に入居者の作品や写真を飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者が居室やリビング以外で過ごすことのできる場所を数箇所確保している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が馴染みの品物を持って来られたり、好みに合わせてそれぞれが快適に心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>暖簾をかける・トイレや風呂場の表示をする等の工夫をしている。内部はバリアフリー・手摺り・車いす対応の完備により、出来ることを行いながら、身体機能を活かし安全に生活が送れるよう支援している。</p>		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	家族のニーズが盛り込めていなかった為、サービス計画書に盛り込む	全職員に周知を徹底する為、ミーティング後回覧し、押印(記録に家族のニーズを盛り込む)	サービス提供書に家族の思い・主治医の意見を記載していく	12ヶ月
2	35	緊急連絡網が無かった(非常時用)	作成し、全職員に徹底さす	緊急時の連絡網を作成し、全職員に配布し、いつでも対応出来るようにしておく	1ヶ月
3	35	地元の協力 消防訓練や災害時の訓練が自治会と出来ない	年2回の内、1回は近隣住民に声をかけ、実施したい	自治会を通して訓練時には、近隣の方への参加をお願いする	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。